

活動分野：

福祉・自立支援 / 健康・医療

研究者名（研究グループ名）：

看護学部 秋山 正子

### 活動概要

ボランティア団体である日本セカンドライフ協会（JASS）の依頼により、在宅看護に関する講演を実施。

### 研究者・研究グループからの「ひとこと」

地域で生活する方々に、「在宅看護」の有効性や内容、利用方法などお伝えしていきたいと思えます。

### 活動内容

活動・研究・委託テーマ	在宅看護に関する講演
対象となる地域・企業等	関西地区の定年退職後の一般市民及びその家族
活動学生(ゼミ・学年等)	教員単独での活動
連携時期	年1回程度（前回は平成28年2月）
学外への広報方法	日本セカンドライフ協会のホームページ及び配布物
連携内容	ボランティア団体である日本セカンドライフ協会（JASS）の依頼で、平均年齢70歳強の参加者を対象に「住み慣れた家庭で最期まで～在宅看護を学ぶ」という2時間の講義・演習を行った。テーマの概要は以下の通りである。 在宅看護とは／訪問看護とは／介護保険について／高齢多死社会と地域包括ケアシステム／さまざまな在宅サービス／訪問看護のここがいい・利用の実際／食事の支援／排泄の支援／清潔の支援／移動の支援／リハビリテーションの支援／呼吸や嚥下に役立つ体操／体調管理の支援／点滴／褥そうのケア／胃ろうのケア／服薬の支援／呼吸ケア／緩和ケア・看取りケア／福祉用具・住宅改修の相談／多職種連携 等
成果	地域に暮らす高齢者の方々に、在宅看護・訪問看護に関する実地的な情報を伝えることができた。

### 活動内容PR(活動の様子・参加者の声等)

参加者の皆様が積極的に質問をしたり、体操に参加したりされていました。「もし私や家族に必要なになったら。」「手続き方法は？」「ひとり暮らしでも家に居続けられますか。」など、具体的な質問が多くありました。お元気な方々は普段、介護保険制度などについて具体的に知る機会が少ないようです。しかし、在宅療養が必要になる可能性は、誰にでもあります。活動を通して、地域で暮らす方々に在宅看護についてお伝えしていく必要性をより強く感じました。